



講義名	フランス語Ⅱ		
(副題)	FrenchⅡ		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	4		
代表曜日	火曜日	代表時限	3時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	1年後期		
必修・選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名
非常勤講師	◎ 大谷孝行

授業の概要	フランス語Ⅰで学習した内容を踏まえながら、さらに複雑なフランス語の表現を学習します。具体的には、未来や過去など、現在以外のことを語る表現について学びます。また、映像教材を見ながらパリを旅してその魅力を探るとともに、フランスの代表的な歌（シャンソン）も学びます。
キーワード①	初級文法
キーワード②	初級会話
キーワード③	パリ
キーワード④	シャンソン

到達目標

到達目標①	①基本的なフランス語の文章を音読できる。(20%)
到達目標②	②フランス語の基本的な文章の構造を理解でき、基本的な文章を「読み、書き、話し、聞く」ことができる。(70%)
到達目標③	③フランスの首都パリの特色（観光名所、歴史的建築物など）を学び、他者に説明することができる。(10%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上（DP1）	0%
専門性の向上（DP2）	60%
社会性の向上（DP3）	40%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現②国際人に必要な外国語能力の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
◎	○			

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	◎	◎			

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	前期の復習 前期で学んだ事項について復習します。	〔復習〕動詞の活用について復習しておく。	30分
第2回	前期の復習 前期で学んだ事項について復習します。	〔復習〕基本数詞について復習しておく。	30分
第3回	会話「この絵は美術館に來たばかりです」 近接過去venir de について。	〔復習〕近接過去の表現についての復習。	30分
第4回	会話「それを訳してみましょう」 近接未来 aller について。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕近接未来の表現についての復習。	30分
第5回	補語人称代名詞 「私を（私に）」「あなたを（あなたに）」「彼を（彼に）」などの表現。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕補語人称代名詞の用法についての復習。	30分
第6回	会話「座りましょう」 代名動詞の用法。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕代名動詞の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第7回	会話「あそこに小さな休憩室があります。」 様々な非人称表現。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕様々な非人称表現の復習。	30分
第8回	補語人称代名詞、代名動詞、非人称表現 補語人称代名詞、代名動詞、非人称表現についての演習で理解を深めます。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕補語人称代名詞、代名動詞、非人称表現についての復習。	30分

第9回	会話「監視人は何と言ったのですか？」 過去のことを表す。複合過去形。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 過去分詞の作り方の復習。	30分
第10回	会話「監視人は何と言ったのですか？」 様々な複合過去の表現を学ぶ。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 複合過去形の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第11回	会話「監視人は何と言ったのですか？」 様々な複合過去の表現を学ぶ。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 複合過去形の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第12回	会話「監視人は何と言ったのですか？」 非人称表現（天候、時刻）。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 非人称表現（天候、時刻）の復習。	30分
第13回	「誰かがドアをノックしている」 主語代名詞on の用法。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 主語代名詞on の用法についての復習。	30分
第14回	「このバッグはあれよりも高い」 比較級、最上級表現。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 比較級、最上級表現についての復習。	30分
第15回	まとめ。これまでの授業の復習。 特殊な形の比較級・最上級。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 特殊な形の比較級・最上級についての復習。	30分
第16回	中間試験		
第17回	会話「ここが最後の会場、ヨーロッパ絵画の会場です」 前出の名詞を受ける指示代名詞の用法。	〔復習〕 指示代名詞についての復習。	30分
第18回	会話「それは知りませんでした」 直説法半過去形の用法。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 直説法半過去形の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第19回	会話「私たちはそれを誇りに思います」 中性代名詞en, y, leの用法。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 中性代名詞en, y, leの用法についての復習。	30分
第20回	フランス文化紹介「印象派絵画」 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 「印象派絵画」の作者名、作品名についての復習。	30分
第21回	会話「コーヒーを飲みませんか？」 提案・勧誘表現Si+直説法半過去？	〔復習〕 提案・勧誘表現についての復習。	30分
第22回	会話「来た時には私たちに知らせてくださいね」 直説法単純未来の用法。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 直説法単純未来の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第23回	会話「私はコーヒーにしたいのですが」 条件法現在の用法。語気緩和。 授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。	〔復習〕 条件法現在の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分
第24回	会話「あなたがいなければ、今回の訪問はさほど楽しくなかったでしょう」 条件法現在の用法。事実に対する仮定。	〔復習〕 条件法現在の活用を暗唱し、書けるようにしておく。	30分

	授業の冒頭で、前回学習した内容の小テストを行います。テスト結果は採点したうえで、次回授業で返却します。		
第25回	様々な動詞の活用の復習 直説法半過去、直説法単純未来、条件法現在についての演習問題。	〔復習〕直説法半過去、直説法単純未来、条件法現在についての復習。	30分
第26回	パリ散策(1) パリ市内地図を見ながら、パリの観光名所を散策します。	〔復習〕観光する際に会えるフランス語について理解できるようにする。	30分
第27回	パリ散策(2) パリ市内地図を見ながら、パリの観光名所を散策します。	〔復習〕観光する際に会えるフランス語について理解できるようにする。	30分
第28回	パリ散策(3) パリ市内地図を見ながら、パリの観光名所を散策します。	〔復習〕観光する際に会えるフランス語について理解できるようにする。	30分
第29回	フランス文化紹介（フランス語で歌いましょう） フランスの有名なシャンソンを紹介し、できれば一緒に歌いましょう。	〔復習〕シャンソンの歌詞の日本語訳を考える。	30分
第30回	フランス文化紹介（フランス語で歌いましょう） フランスの有名なシャンソンを紹介し、できれば一緒に歌いましょう。	〔復習〕シャンソンの歌詞の日本語訳を考える。	30分
第31回	期末試験		

評価方法	到達目標 1 については、授業中の発話で評価します。(20%) 到達目標 2 については、毎回の小テスト(40%)、期末筆記テスト(30%)で評価します。 到達目標 3 については、期末筆記テストで評価します。(10%) なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。 ②社会性：40%、③専門性：60%
使用資料＜テキスト＞	田村弘行『フランス語でくようこそ』三修社。
使用資料＜参考図書＞	授業中に随時紹介します。
授業外学修等	毎回、授業の開始時に、前回授業の内容について小テストを行います。したがって、前回の授業を復習して授業に臨むことが必須です。 テキストの録音音声を各自が必ずダウンロードして、復習に役立ててください。
授業外質問方法	オフィスアワー時に直接質問を受けます。
オフィス・アワー	授業開始前や授業終了後に直接ご相談ください。



✕ ウィンドウを閉じる



講義名	ジェンダー論【オンライン】		
(副題)	Gender Studies		
開講責任部署	子ども育成学部子ども育成学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4時限
校地	呉羽キャンパス		
開講時期	2年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員	
職種	氏名
教授	◎ 彼谷環

授業の概要	社会的・文化的な性のありようを意味するジェンダーは、時代や地域、社会によって意識や変化がみられる。ジェンダーの概念はどのような社会のなかで成立し、国・地域の制度や法に影響を与えてきたのだろうか。日本では第5次男女共同参画社会基本計画において多様な視点から「ジェンダー平等」施策が講じられているが、現在どこまで実現しているだろう。諸外国との制度の比較から、日本が抱える課題とそれを克服する視点について考えていこう。オンライン授業を通じて、受講者同士の意見交換も活発に行う予定である。
キーワード①	ジェンダー平等
キーワード②	性の多様性
キーワード③	隠れたカリキュラム
キーワード④	DV
キーワード⑤	男女共同参画基本法

到達目標	
到達目標①	①ジェンダーの概念について、説明できる(20%)。
到達目標②	②これまで普遍的だとされていた考え方に対し、異なる視点があることを理解できる(40%)。
到達目標③	③「ジェンダー不平等」が生じる社会的・政治的背景を考え、解決する方法について議論できる(40%)。
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など						
卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
○		○	○			

ディプロマポリシー		
人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
		◎

ディプロマポリシー配分比率	
	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	0%
専門性の向上 (DP2)	0%
社会性の向上 (DP3)	100%

カリキュラムポリシー					
カリキュラムポリシー①			カリキュラムポリシー②		
子①子ども育成の教養					
キー・コンピテンシー（重視する能力）					
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ	
○	○		◎	○	
教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○		◎		○
授業計画表					
回	【授業内容】	（事前・事後学習）		（事前・事後学習時間）	
第1回	ガイダンス——「ジェンダー」とはなにか。「両性の平等」原則と現実とのギャップを日本、世界の現状から考える。	〔予習〕「ジェンダー」概念について、文献やネットの情報を活用して調べておく。〔復習〕現代社会でみられる日本と世界のジェンダー差別について整理する。		180分	
第2回	近代日本における性差別と今日の動向を整理する——「性別二元論」に基づく社会制度はどう変化しているか？	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕多様な性の存在を認める諸外国の制度について整理しておく。		180分	
第3回	教育——学校教育におけるジェンダー・バイアス、「隠されたカリキュラム」について考える。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕文部科学省の通達の内容を理解し、望ましい教育現場の在り方について自分の意見をまとめる。		180分	
第4回	家族——現代に残る「家制度」、変容する家族のあり方を考える。	〔予習〕レジュメに目を通しておく〔復習〕家庭生活における男女平等が実現した部分、そうでない部分を整理しておく。		180分	
第5回	生殖補助医療とリプロダクティブ・ライツ	〔予習〕資料を読んでおく。〔復習〕生殖補助医療について最新の動向を調べてみる。		180分	
第6回	ジェンダーギャップ解消を目指して	〔予習〕資料を読んでおく。〔復習〕世界の様々な団体が発表するジェンダーギャップ指標からわかることをまとめる。		180分	
第7回	社会保障——家族モデルの変化と社会保障制度の未来について考える。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読し、日本の現行制度を調べておく。〔復習〕日本の社会保障制度と諸外国のそれとの違いをまとめる。		180分	
第8回	性暴力・その1——刑法上の犯罪はどのように変容してきたかを考える。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕刑法における罪の種類が変更したことについてまとめる。		180分	
第9回	性暴力・その2——ドメスティック・バイオレンス（DV）、デートDV、児童虐待の「いま」を学ぶ。（外部講師・自治体の相談支援員による講義）	〔予習〕DVが生じる理由と子どもに与える影響について、他の授業科目で学んだことも活用しながら整理する。〔復習〕外部講師の話聞いて感想をまとめる。		180分	
第10回	産む自由／産まない自由——「リプロダクティブ・ライツ」（性的自己決定権）の歴史と内容を理解する。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕宗教や文化を背景に、諸外国の制度に違いがあることを理解する。		180分	
第11回	性表現——ポルノグラフィと「性表現の自由」、刑法の「わいせつ罪」規定との関係を考える。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕既存の法律を根拠に、どこまでが「表現の自由」として認められるかを考える。		180分	
第12回	政策決定——政治・行政における女性参加の促進、「ポジティブ・アクション」について検討する。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕女性の政治参加が顕著な諸外国の制度とその効果についてまとめる。		180分	
第13回	司法——犯罪被害者・犯罪加害者とジェンダーの関係性を考える。 性被害者に対する報道による「二次被害」の深刻さ、「加害者に対する教育」にはどのようなものがあるか。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕犯罪被害者と加害者の報道の仕方について、新聞やネットニュースを比較しながらまとめる。		180分	
第14回	男性にとってのジェンダー——多様な社会を目指して	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕男女平等の実現を男性の視点から考察する重要性を理解する。		180分	
第15回	世界のなかの性差別——児童婚、持参金制度（インド）、女子割礼（アフリカ諸国）等、人権侵害と指摘される文化的慣習について考える。	〔予習〕これまで学んだ諸外国の性差別について整理しておく。〔復習〕授業内容について、「子どもの権利」の保障という視点からも深められるようにする。		180分	
第16回	0				
評価方法		到達目標項目①及び②では、期末レポートで評価する（60％）。 到達目標項目③では、主に授業中の課題で評価する（40％）。 なお評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価する。			
使用資料＜テキスト＞		犬伏由子・君塚正臣・井上匡子編『レクチャー ジェンダー法・第2版』（法律文化社）			
使用資料＜参考図書＞		テーマにあわせ適宜資料を配布する。			

授業外学修等	・授業のはじめに今日生起している法的社会的ニュースを取り上げるので、各自新聞をよく読んでくこと。 授業テーマについては、テキストや資料・文献等を参考に復習を心がけること。
授業外質問方法	現代社会学部と合同のオンライン授業のため、時間外の質問はメールで受け付ける。 kayatama（アット）tuins.ac.jp
オフィス・アワー	火曜日・3限目（13:10～14:40）・E312研究室

UP

 [ウインドウを閉じる](#)



講義名	持続可能型社会論（資源循環）		
(副題)	Sustainable Societies (Resource Circulation)		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
非常勤講師	◎ 加賀谷重浩
教授	上坂博亨

授業の概要	持続可能な社会とは、生活の質を高めつつ、社会が持続的に維持・発展することであり、人類全体の究極的な目標である。本講義では、地球上の物質循環や環境問題を科学的に理解し、持続可能型社会の実現に向けたロードマップに基づいて、一人ひとりがそれぞれの関心分野において将来に向けた具体的な行動ができるようになることを目的とする。【SDGs:目標1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17】
キーワード①	持続可能性
キーワード②	物質循環
キーワード③	エネルギー
キーワード④	環境問題
キーワード⑤	ロードマップ

到達目標

到達目標①	①持続可能な社会の実現に関する基礎知識を持ち、人に説明できる（40 %）
到達目標②	②持続可能な社会の実現のための課題について各自の関心分野において改善行動として具体化できる（40 %）
到達目標③	③自分の置かれた環境の中で持続可能な社会の実現のための行動ができる（20 %）
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
○	◎	○

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	30%
専門性の向上 (DP2)	40%
社会性の向上 (DP3)	30%

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現①現代社会に必要な基礎知識の向上	現⑧環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎					

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	＜持続可能型社会論とは＞ 授業の目的と概要ならびに評価方法について説明する。 持続可能な社会の実現は、今や人類全体の究極的な目標である。 この持続可能な社会の概略を説明する。	〔予習〕 持続可能な開発について理解していることを振り返って予習しておく。 〔復習〕 授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第2回	＜人類の歴史から見る持続可能性：食料＞ 人類はアフリカを出発点として、今や世界に居住を広げているが、野生の動植物を食料とするには常に困難を伴ってきた。その後、農業による食料確保の技術を会得するが、これには広大な森林伐採が行われた。このような経緯について歴史を振り返って解説する。	〔予習〕 これまでに学習したことのある人類の歴史について振り返って予習しておく。 〔復習〕 授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第3回	＜農業における物質循環＞ 食料を省力的かつ経済的に生産するには大規模生産方式が効果的であるが、大規模単一生産は気候変動や災害、病害虫などの影響を強く受ける。農業における物質循環について概説し、ヒトの生存のために不可欠な食料生産の持続可能性について考える。	〔予習〕 歴史的な農業の発展の経緯を振り返って予習しておく。 〔復習〕 授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第4回	＜持続可能な社会のための食料の循環＞ 人口と食料との関係を復習するとともに、我が国の食料事情を理解する。それらを踏まえ、持続可能な社会のための農業のあり方、食料の循環について考える。	〔予習〕 日常の食料品の取り扱いについて予習しておく。 〔復習〕 授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第5回	＜人類の歴史から見る持続可能性：エネルギー＞ ヒトは火を手によって発展してきた。その火とは森林を伐採して得たバイオマスエネルギーである。さらに産業革命以	〔予習〕 これまでに学習したことのある人類の歴史について振り返って予習しておく。 〔復習〕 授業の内容を振り返り、	45分

	後では地下から掘り出した石炭や石油を使うようになった。このような経緯について歴史を振り返って解説する。	持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	
第6回	＜持続可能な社会のためのエネルギー論＞ エネルギーはいくつかの種類があり、目的に応じてそれぞれの間で変換される。しかし、一般に変換効率が悪く、しかも貯蔵、輸送が困難な場合があり、ほとんどの場合には最終的にはやがては熱エネルギーとなって大気中に拡散してしまう性質がある。このようなエネルギーの性質を理解し、持続可能性について考える。	〔予習〕これまで学んだエネルギーの種類について予習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第7回	＜人類の歴史から見る持続可能性：材料＞ 歴史的に生活水準の向上のために、種々の製品が製造されてきた。これらの製造に使用される材料は、地下資源や陸や海の生態系から原材料として求められてきており、当時から既に深刻な資源の枯渇により持続性が危ぶまれてきた。このような経緯について歴史を振り返って解説する。	〔予習〕これまでに学習したことのある人類の歴史について振り返って予習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第8回	＜材料における物質循環＞ 資源は無限ではなく、常に枯渇が叫ばれている。材料においては、古くから再資源化の取り組みがなされている。材料における物質循環について概説し、材料の持続可能性について考える。	〔予習〕材料の歴史的発展の経緯を振り返って予習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第9回	＜持続可能な社会のための工業製品の循環＞ 持続可能な社会では、使用後の工業製品を安易に廃棄するのではなく、長期利用、再生利用、再利用することへの発想転換が求められる。工業製品を消費者が使用した後の循環について考える。	〔予習〕持続可能な社会で特に求められている工業製品について、これまで学んだことをもとに予習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第10回	＜人類の歴史から見る持続可能性：衛生環境＞ ヒトは飲料水などの生活用水が不可欠であり、多くは河川や湖沼の近くに居住する場合が多いが、高地や乾燥地など容易に生活用水が得られない場合もある。生活用水の確保によって健康的な生活がもたらされる。このような経緯について歴史を振り返って解説する。	〔予習〕これまでに学習したことのある人類の歴史について振り返って予習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第11回	＜持続可能な社会のための衛生環境＞ 持続可能な社会では、衛生環境の面から安全な飲料水とトイレが必須である。これらの観点から、衛生環境の持続可能性について考える。	〔予習〕持続可能な社会で特に求められている衛生環境について、これまで学んだことをもとに予習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第12回	＜人類の歴史から見る持続可能性：大量生産・大量消費時代における問題＞ 人々は大きな集団で分業化することによって技術を高め、その技術による産業によって社会を創り上げてきた。このような社会の持続的発展のためには、技術創造の知的財産、技術伝承の方法、技術利用が必要であるが、それらを最優先に考えた結果、環境・安全面での問題が生じた。このような経緯について歴史を振り返って解説する。	〔予習〕20世紀までは、環境問題といえば公害であった。富山県内で発生した公害について予習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第13回	＜地球大気物質循環＞ 大気中には酸素、窒素以外に多種多様な微量成分が含まれているが、その多くは自然現象ばかりではなく、人為的活動を起源としており、気候変動を始めとして種々の環境影響を及ぼしている。このような地球大気物質循環が持続可能な社会に及ぼす影響について考える。	〔予習〕地球温暖化による身近な影響について、これまで学んだことを予習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第14回	＜持続可能な社会のための炭素資源の循環＞ ほとんどの有機化学工業製品は、石油・石炭・天然ガス等を原料としている。これらの製品について、脱炭素化を目指す持続可能な社会のための技術について考える。	〔予習〕有機化学工業製品について、これまで学んできたことを予習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	45分
第15回	＜持続可能な社会の実現に向けたロードマップ＞ 持続可能な社会の実現のための行動は始まったばかりである。第1回～第14回で学んだことに基づいた、持続可能な社会の実現に向けたロードマップを考える。	〔予習〕将来の目標を実現するためのロードマップを考えるために、第1回～第14回の講義について復習しておく。 〔復習〕授業の内容を振り返り、	45分

		持続可能な社会の実現に必要な本質について考えて、課題に回答する。	
第16回	<期末試験> 第1回～第15回の講義内容の理解度を確認し、本講義の目標の達成度を試験を通して評価する。 (詳細については講義中に説明する。)	[予習] 特になし。 [復習] 特になし。	
評価方法	授業への興味関心度と受講態度（15％）、毎回授業開始時に行う小テスト（45％）、期末試験（40％）にて評価する。評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」に従う。		
使用資料<テキスト>	講義資料を毎回WebClassに掲載する。各自ダウンロード、印刷して講義に出席すること（紙媒体では配布しない）。		
使用資料<参考図書>	その他資料などをスクリーンに投影することがある。		
授業外学修等	持続可能型社会に関するテレビ・新聞などによる報道記事に注目し、日頃から持続可能型社会について考える習慣を身につけること。		
授業外質問方法	電子メールでの質問を受付ける。		
オフィス・アワー	授業科目の前後		



✕ ウィンドウを閉じる



講義名	人工知能とその活用		
(副題)	Artificial Intelligence and its Practical Application		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2 時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年後期		
必修・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 新森昭宏

授業の概要	画像認識・機械翻訳・対話ロボットなど、人工知能（AI: Artificial Intelligence）を活用した製品やサービスが広く使われ始めている。現在はディープラーニングが人工知能の中核をなす技術となっている。この授業では、人工知能の基礎概念を学んだ上で、ディープラーニングの基礎知識を学び、ディープラーニングを適切に利活用できるようになることを目指す。 <注意>本授業では、スマートフォン、またはタブレット端末、またはPCを利用して、確認テストを行うため、いずれかを毎回持参すること。
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、情報サービス企業の研究部門で長期にわたって情報技術の研究開発と情報システム開発・管理に従事した。自然言語処理について、自らの研究開発経験に基づいた説明を行う。また、AIのビジネス利活用におけるプロジェクトの進め方に関して、実務経験に基づいた説明を行う。
キーワード①	アルゴリズム
キーワード②	探索・推論
キーワード③	機械学習
キーワード④	ニューラルネットワーク
キーワード⑤	ディープラーニング

到達目標

到達目標①	人工知能技術の基礎概念を説明できる。(40%)
到達目標②	人工知能技術の活用状況を説明できる。(40%)
到達目標③	人工知能の活用について、自らアイデアを出すことができる。(20%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー

ディプロマポリシー

人間性の向上 (DP1)	専門性の向上 (DP2)	社会性の向上 (DP3)
	◎	

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	
専門性の向上 (DP2)	100%
社会性の向上 (DP3)	

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
現⑨経営情報に関する専門性の向上	現③キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力 ※子ども育成学部のみ	教育支援力 ※子ども育成学部のみ
		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎					

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	人工知能（AI）とは： 最近の話題、人工知能研究の歴史（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 シラバスを読むこと。人工知能に関する新聞記事やTVニュースを見ておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第2回	人工知能（AI）とは： アルゴリズム、人工知能分野の問題（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 「ユークリッドの互除法」について調べておくこと 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第3回	人工知能をめぐる動向： 探索、推論（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 深さ優先探索と幅優先探索についてインターネットで調べておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第4回	人工知能をめぐる動向： 知識表現（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 「エキスパートシステム」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第5回	人工知能をめぐる動向： 機械学習・深層学習（理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 「機械学習」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分

第6回	機械学習の手法： 代表的な手法（教師あり学習、教師なし学習） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕「教師あり学習」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第7回	機械学習の具体的方法： 代表的な手法（強化学習）、モデルの選択・評価 （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕「混同行列」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第8回	中間試験とその内容の解説	〔予習〕第7回までに説明した内容を復習しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、中間試験結果を見直すこと。	180分
第9回	ディープラーニングの概要： ニューラルネットワークとディープラーニング、誤差関数、正規化	〔予習〕「誤差関数」について調べておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第10回	ディープラーニングの概要： 最適化手法、誤差逆伝播法、活性化関数 （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕「誤差逆伝播法」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第11回	ディープラーニングの要素技術： ネットワークの構成要素、リカレントニューラルネットワーク、トランスフォーマー、オートエンコーダ （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕「リカレントニューラルネットワーク」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第12回	ディープラーニングの応用例： 画像認識、音声処理、自然言語処理 （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕物体認識についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第13回	ディープラーニングの応用例： 深層強化学習、データ生成、転移学習・ファインチューニング、マルチモーダル、モデルの解釈性、モデルの軽量化 （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕生成AIの最近の動向についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。	180分
第14回	生成AIの基礎と展望： 生成AIの応用と革新、基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル、生成AIの留意事項、マルチモーダル、プロンプトエンジニアリング、ファインチューニング （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕最近の新聞で、AIに関する記事について調べておくこと。 〔復習〕講義資料を再確認すること。	180分
第15回	AIの社会実装に向けて： AIのビジネス利活用、AIプロジェクトの進め方、データ収集・加工・分析・学習 AIの法律と倫理： AIの法律、AIの倫理 （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った確認テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。確認テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕ディープラーニングの応用例についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕授業で説明したスライドを再確認し、確認テスト結果を見直すこと。期末試験に向けた学習を行うこと。	180分
第16回			

評価方法	中間試験(45%)、期末試験(55%)にて評価する。 「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。
使用資料＜テキスト＞	・「ディープラーニング G検定 公式テキスト 第3版」（翔泳社，2024）
使用資料＜参考図書＞	・「教養としてのAI講義」（メラニー・ミッチェル，日経BP，2021）
授業外学修等	日頃から新聞記事、テレビ番組などで人工知能関連の情報収集をすること。
授業外質問方法	メールまたはオフィス・アワーで対応。 （メールアドレスは、shinmori（アット）tuins.ac.jp）
オフィス・アワー	火曜日・2限目（10:50～12:20）・127研究室

